

令和4年度 学校経営要綱

コミュニティ・スクール春日野中学校

校長 後藤 幸雄

1 学校経営の基本構想

(1) 学校経営の基本や基盤

- ①公教育を推進する学校として、日本国憲法、教育基本法に示された教育の理念に基づき、関係諸法規並びに学習指導要領に立脚した教育を行う。
- ②福岡県、春日市の教育施策の方針に則るとともに、市学校管理規則に従い、「令和の日本型学校教育」を推進する。
- ③コミュニティ・スクールとして、地域社会の特性を踏まえ、現代社会の要請並びに保護者や地域の要望、生徒の実態に応じ、それぞれの願いを具現化する。

(2) 学校教育目標

豊かな人間性を持った心身ともにたくましい生徒の育成
校訓：「創造」「友愛」「剛健」

○学校スローガン：“協働Collaboration”

協働(collaboration)とは、「協力して働くことであるが、各々が得意や強みを発揮して、他者の苦手を補完したり改善させたりするとともに、自身も得意や強みさらに伸長して、目的を達成したり、課題を解決したりするはたらき」である。

(3) 具体的目標

①目指す生徒像

- 様々な情報を活用し、自ら考え、判断・表現し、学力・体力を向上させる生徒（創造）
 - ・情報活用能力、学力、体力の向上
- 礼節を身に付け、多様な他者と協働し、社会に貢献する生徒（友愛）
 - ・他者とつながる力、社会貢献力の向上
- 自分の強みを見つけ、それを磨き、困難であっても挑戦する生徒（剛健）
 - ・自分と向き合う力、自分を高める力の向上

②目指す学校像

- 基本を大切にし、生徒と職員ともに伸びゆく学校（学力・体力・情報活用能力）
- 社会の変化に主体的に対応し、未知で先進的な事にもチャレンジする学校（自分と向き合う力）
- 礼節や謙虚さを大切にし、地域に貢献することで地域・家庭から信頼され、誇りに思われる学校（社会貢献力）

③目指す教師像

- 生徒一人一人の可能性を大切にし、積極的な生徒指導をもとにした支持的風土の学級経営、教科等の学習指導ができ、職能成長を図ろうとする教師（学習指導力・生徒指導力）
- 協働して自校の教育課題の解決を図り、学校経営に参画する意識をもって主体的に職務を遂行する教師（協働性・職務遂行）
- 教育公務員として職責を自覚し、生徒や保護者、地域から信頼される教師（服務規程の遵守）

④目指す家庭像

- 子供が自立できるように、基本的な生活習慣を確立させ、子供とコミュニケーションをとりながら成長を見守り、励ます家庭（社会貢献力）
- 学校・地域と連携・協働し、社会の変化に主体的に対応しながら子供とともに伸びゆく家庭

⑤目指す地域像

- 子供が地域・社会の担い手となれるよう、社会道徳と共助の精神、コミュニケーション力を育成する地域（社会貢献力）
- 学校・家庭と連携・協働し、社会の変化に主体的に対応しながら子供とともに発展する地域

(4) 自校の教育課題、経営課題

①教育課題

- ア 学力の向上
情報活用能力、知的好奇心の高揚、CD層の生徒の学力向上
- イ 体力の向上
- ウ 困難に挑戦する態度の向上（自分と向き合う力、自分を高める力）
- エ 礼節、社会貢献力の向上（他者とつながる力）
学校内外での挨拶、適切な言動などの礼儀や地域に関わる意欲や行動力の向上

②経営課題

- ア 校務分掌組織・学年組織の改善と組織運営の機能化
 - 教頭・主幹教諭による校務運営の充実
 - 組織を機能させる報告・連絡・相談の徹底と協働での指導・支援の徹底
 - ICTを活用した業務改善の実施
- イ 教育課程の改善
 - 協働Collaborationを取り入れた「鍛ほめメソッド」を教育活動に導入
 - 「総合的な学習の時間」の「ライフタイム」におけるTLCの導入、「ホームタイム」におけるプレゼンテーションの導入
- ウ 教職員の人材育成
 - 学級経営力、実践的生徒指導力と教育相談力の向上
 - めあて、まとめ、振り返りのある授業の実施、生徒のICT活用指導力の向上
 - 教育公務員・社会人としての基礎・基本、不祥事防止の取組
- エ 小学校、家庭・地域と連携したコミュニティ・スクールの推進

2 本年度の重点

(1) 本年度の重点目標

- 情報活用能力、学力、体力の向上
学力：業者テスト平均スコア+1、CD層の生徒減少 体力：平均Tスコア52
情報活用能力：自己評価平均3.2(4段階評価)
- 他者とつながる力、社会貢献力の向上
社会貢献力：道徳性自己評価平均3.4、キャリアアンケート平均3.4、
自治会アンケート平均3.5、生徒自己評価3.4(4段階評価)
他者とつながる力：非認知能力アセスメント自己評価平均3.4(4段階評価)
- 自分と向き合う力、自分を高める力の向上
自分と向き合う力：非認知能力アセスメント自己評価平均3.4(4段階評価)

(2) 指導の重点

協働Collaborationを取り入れた「鍛ほめメソッド」を教育活動に導入する。

「鍛ほめメソッド」の3段階において、以下の3つのポイントに取り組む。

- ポイント1：やや困難な目標をスモールステップで設定させ、「やったらできた」を繰り返し実感させる。
- ポイント2：挑む段階では、適宜、教え合い、考えの確認、考えの練り上げ等の協働活動を位置づけ、困難に挑戦させたり、目標達成のためのポイント・コツをつかませたりする。
- ポイント3：目標達成に向けて努力したプロセスと結果をつなげてほめる（努力を認める）。

(3) 経営の重点

- ① 校務分掌組織・教育課程の改善学年組織の改善と組織運営の機能化
- ② 社会に開かれた教育課程の改善
- ③ 教職員の学級経営力、実践的生徒指導力と教育相談力の向上
- ③ 小学校、家庭・地域と連携したコミュニティ・スクールの推進

(4) 教頭・主任・主事等に対する「ミッション」

① 校務分掌組織・学年組織の機能化と組織運営の効率化

ア コロナ対応を含め、社会の変化にアイデア豊かに対応する校務運営【教頭、主幹】

イ 学校・学年組織を機能させる報告・連絡・相談の徹底と協働での指導・支援の徹底【教頭・主幹・学年主任】

ウ 不登校の未然防止、不登校兆候の早期発見・早期解決を図る生徒・保護者支援、ケース会議の充実【教頭・保健指導部・特支コーディネーター】

エ いじめアンケートの毎月実施、いじめの早期発見・早期対応を徹底する。【生徒指導部】

オ 評定や通知表の提出前等における5時間授業の実施や、ICTを活用した文書作成・処理等の改善などICTを活用した業務改善を図る。【教頭・教務主幹・ICT中核教員】

カ 学年部会をはじめ、会議の効率化、各校務分掌担当者の責任の明確化を図る。【主幹・学年主任・各主任】

キ リスクマネジメントの視点で危機管理マニュアル等を付加・修正し、アレルギー対応、不審者対応、熱中症対策、台風・大雨などの自然災害について迅速な対応ができるようにする。【教頭・保健指導部】

ク 地域や家庭と連携し、学校安全計画や危機管理マニュアルを見直すサイクルの実施【教頭・保健指導部】

② 社会に開かれた教育課程の改善

ア 「鍛ほめメソッド」の視点でのキャリア教育の充実。具体的には、「ライフタイム」におけるTLCの導入、職場体験活動では「働くとは何か、働く上で必要なTLCは何か」の探究・意見発表、進路調査・上級学校体験では「学ぶとは何か」の意見発表の場を設定する。また、「ホームタイム」におけるプレゼンテーションの導入【主幹・教育課程部・進路指導部・学年主任】

イ 礼節を重んじ社会に役立つとする社会貢献力の向上を図る地域貢献活動の充実。地域貢献活動の学びを発表したり、成果を地域の方に発表してもらったりする

- 場を設定する。【教務主幹・地域担当】
- ウ 協働Collaborationを取り入れた「鍛ほめメソッド」に基づいた体育的・文化的行事を具体化する。【行事实行委員長・学年主任】
- エ 生徒会活動を活性化させ、規範意識と自己指導能力の育成めざした積極的な生徒指導【生徒指導部】
- オ 教科等における協働Collaborationを取り入れた「鍛ほめメソッド」のポイント1～3を推進する。【校内研修部・学年主任】
- カ タブレットを活用した授業、協働、本時のまとめ、プレゼンテーション、教科の繰り返し学習の実施についての研究【校内研修部・ICT中核教員・学年主任】
- キ 入試問題等の年間を通じた活用、活用問題が充実した副教材の選定【主幹・学年主任】
- ク 学力向上プランをもとにした検証改善サイクルの実施、特に学力層の変容など平均値だけによらない学力分析と学年や教科に情報提供【学力向上コーディネーター・主幹】
- ケ 授業の成果や長期休業中の宿題、体力テストの結果、部活動など教育課程内外の様々な活動における生徒の学習成果を評価（掲示）する場の設定【教科主幹・生徒指導部・保体科】
- コ 保健体育科において、授業導入における個別の課題に対応する補強運動を工夫し、共通実践する。【保体科】
- サ 自己指導能力の指導及びあいさつなどの礼節指導の充実【生徒指導部】
- シ 生徒の実態に応じ、道徳的課題を一人ひとりが自分の問題としてとらえ、向き合う「考え、議論する」道徳の時間への転換【道徳教育推進教師】
- ス 「かがやき」「あおぞら」「社会科基底カリキュラム」を活用した指導の工夫【人権・同和教育担当】
- セ 英語教育の改善。英語で進める授業の実施（説明を減らす）、昼休みや帰りの会におけるALT等による英語での校内放送や英語掲示板の充実を図る。【英語科・学年主任・主幹】
- ソ 国語教育における表現活動の充実。相手を意識して自分の考えをわかりやすく、相手を惹きつけて伝える方法を学ばせるビブリオバトル等に取り組む。【国語科・学年主任・主幹】

③ 教職員の人材育成

- ア 校長のミッションについて主任・主事に方策を練らせ、責任を持って提案させる。【教頭・主幹】
- イ 学校教育目標に合わせて職員に自己目標や実際の取組について自己評価に具体化させる。【教頭】
- ウ 生徒の成長を促すために教職員間のコミュニケーションを密にし、規律ある職員室経営を行う。【教頭】
- エ 教員の不祥事防止対策の研修、日常的な注意喚起を行う。特に、飲酒運転撲滅、体罰によらない生徒指導の徹底、不適切な画像・映像の流出防止、情報漏洩の防止については、常時、注意喚起、研修の実施。【教頭・校内研修部】
- オ 人権感覚の涵養、体罰によらない生徒指導、生徒とのより良い人間関係を築き、生徒の自己指導能力を高める生徒指導力・学級経営力、保護者との信頼関係を築く接遇の対応、アレルギー等対応など危機管理研修の実施【校内研修部】
- カ 教科学習におけるめあて、まとめ、振り返りのある授業の実施、手順説明の簡略化による生徒の活動時間確保、授業のまとめの完全実施、適宜、教え合いや確認、

練り合いといった協働活動の時間の保障。振り返りの場でのポイント・コツの明示
徹底【校内研修部】

キ 授業における生徒のICT活用指導力の向上【主幹・校内研修部】

ク 管理職等による日常的な授業参観及び生徒授業評価の結果を基にした授業改善
(基本的な授業技術及び主活動の手順説明の時間短縮と主活動、授業のまとめにつ
いて)【校内研修部・教育課程部】

ケ 生徒理解と特別な支援を要する生徒の理解・支援のための校内研修の実施【生徒
指導部】

コ 教育公務員・社会人としての基礎・基本や中学生を指導する上での基礎・基本を
高める校内OJTの実施【教頭・主幹教諭・主任】

④ 小学校、家庭・地域と連携したコミュニティ・スクールの推進

ア 地域と連携した通学路点検や避難訓練、交通安全教室など生徒に主体的に考えさ
せる学校安全の推進【教頭・生徒指導部】

イ 生かす地域コーディネーターと連携した教育活動の推進【CS担当】

○地域を生かす：伝統文化・の中応援団の授業・国際交流・学舎かすがの

○地域で学ぶ：職場体験活動・カチ歩き

○地域と学ぶ：部伍会・親子学習会・オープンスクール

○地域に還す：地域行事ボランティア・地域清掃・春日市クリーン作戦

ウ 主幹教諭の連携による野中ブロック構想のPDCA【主幹】

エ 小学校への積極的な進路情報等の中学校についての情報提供など、中一ギャップ
解消の連携【主幹・CS担当】

オ 地域貢献活動での生徒や地域の方々、保護者の動きが見える地域関係のたより等
の掲示板の充実を図る。【教務主幹・CS担当】

学校教育目標：豊かな人間性を持った心身ともにたくましい生徒の育成

重点目標：①情報活用能力、学力、体力の向上
②他者につながる力、社会貢献力の向上
③自分と向き合う力、自分を高める力の向上

学校スローガン：“協働 Collaboration”

